

(Ⅱ-①②) インクルーシブな学校文化の醸成にむけての構想

- ①新しい障がい観の浸透(ICF:環境因子と個人因子)
- ②発達支援・ユニバーサルデザインの視点からの充実
- ③地域のセンター的役割(特別支援学校, すばる)

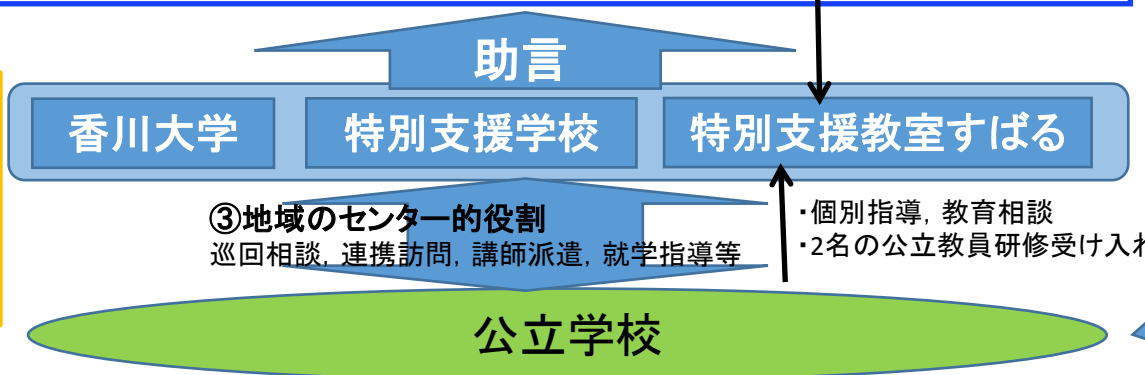
* 有識者会議報告(入試改革)を受けて
 学力試験・面接と**抽選**により、通常学級在籍の多様な子供の確保に努め、その効果的な指導を公立校に発信する。

一貫校	幼稚園	小学校	中学校
①新しい障がい観の浸透	○日常のかかわり(人権感覚) →		
保護者と共に	・年少・年中・年長の常時交流等	・特支の交流, 介護体験, 老人ホーム訪問, 心の授業参観日, キャリア学習等	・部活動, CAN学習, 文化祭, 送別芸能祭, 特支・幼交流, キャリア学習等
	幼小合同親子家庭教育学級(ネイバーサポート事業)		親子セミナー
	幼小中特支合同運動会, 幼小中合同学校保健委員会		
	OYG共生事業(木工教室, 天体観測, カヌー等), ありがとうスタンプ運動, 幸せを呼ぶオレンジパトロールベスト着用運動		
②発達支援・ユニバーサルデザインの視点からの充実	個の生活・学習上の困難に応じた発達支援及びユニバーサルデザインの視点を取り入れた保育・学習環境づくり(人, もの, 活動)		
	・遊びレベル →	・授業レベル・生活レベル・学級経営レベル →	
	・生活の支援(困りの見とり) →	・学習・生活の支援と気質・能力の伸長 →	
	12年間の子供と保護者の心の支援部(早期支援体制づくりとバトンの継承)養教, SC,SSW,特支コーディネータ		
	すばるへアセスメントと個別指導の研修(小中各1名の教員を派遣)		

・園・通常学級での指導モデルの提供
 ・支援員研修の提供

<H31年度の方角性>

- ・子供の困りや特性に気付くことからスタート
- ・実態と合理的配慮の検討
- ・心の支援部(SC, SSW)との連動, 学園内連携
- ・気質・能力の伸長も(適切な環境と自尊心有用感を)
- ・特支専門の校長のリーダーシップ



課題 文化として根ざすための学園共通意識と継続可能なシステムの構築